



たからmikke通信



No. 4

発行 授業研究部

動作化と役割演技

3号までは、一般論から主に高学年向きの授業のヒントを紹介しました。今回は、低学年から中学年にかけての道徳授業のテクニック？について、少し紹介します。引用した本は佐藤幸司著『温かいネタで創る「道徳」授業』（明治図書、1992）です。

*

1. ノンフィクション資料からフィクション資料への展開

いままでの道徳授業は「副読本（フィクション）」から「教師の説話（ノンフィクション）」という流れだが、これでは「創作の世界から強引に現実の世界に引き戻され、自己を見つめさせられること」になり、児童の反応も止まることが多い。

低学年段階では中・高学年ほどではないにしろ、やはり「自己を見つめる場面」というのは、児童の学習活動が停滞しがちなところである。原因を考えると、その一つとして「違和感」があげられる。この「違和感」というのは、フィクション（創作）の世界での出来事を現実の世界へ当てはめようとする違和感である。児童、特に低学年の児童は、自分の生活と結びつけて、いろいろな事柄を理解していく。まず最初にあるのは、児童の直接体験なのである。直接体験は、当然のことながら現実の世界でのみ可能である。現実世界での体験をもとにして、児童は、抽象的な内容や創作の世界での出来事を理解していく。

(前掲書37ページ)

だから、「児童の日常生活（ノンフィクション）」から「副読本資料（フィクション）」という流れを組み立てることで、「まず、自分たちの経験の中から「価値」を学び、それを創作の世界にも広げていくこと」ができるようになる。

2. 役割演技により「自己を見つめる」

「役割演技」…資料中の人物になったつもりで、自分ならどうするか、考えて行う演技。演技者自身が、シナリオを作ることになる。「基本形」における展開の後段において有効な方法である。

「動作化」…資料中の人物になったつもりで、主人公の気持ちに共感しながら行う演技。資料の内容をシナリオとして、その通りに演技する。「基本形」における展開の前段において有効な指導法である。

尾形註：ココで言う「基本形」とは、これまでのふつうの道徳授業のパターンを指す。「導入」→副読本資料→自己への振り返り→「教師の説話」というパターン。

以上の他に、授業づくりのヒントになる文章を紹介します。

○「道徳」の授業が停滞してきた原因の一つに、その内容があまりにご立派すぎたということはないだろうか。ゲーム感覚で「道徳」を学ぶ。そんな授業もあっていいと思う。 (前掲書 88 ペ)

○思考するために必要なのは、矛盾である。乱れである。 (前掲書 35 ペ)

■『子どもが本気になる道徳授業・第8集』(明治図書, 1996) より

○「事実」の提示の仕方には、①ある事例を取り上げ、詳しく描いて上位面に訴える方法と、②「事実」を伝えて認知面に働きかける方法がある。

○戦争のような身近ではないが重要である問題をあつかった道徳授業は、その問題に関心を持ち追求していくことと自分の生活との関連について考え、自分の生活を振り返ることの両面が目標になると考える。 (99 ペ)

■『子どもが本気になる道徳授業・第9集』(明治図書, 1999) より

○私は、すぐれた道徳授業は、①発端の不可解性、②中盤のサスペンス、③結末の意外性、という三要素を満たした本格推理小説のようであってはいらないと思っている。

○社会問題を扱った道徳授業では、その問題に関心を持ち、追求することを最終的なねらいとすべきである考える。 (30 ペ)

○(道徳授業の) 方向としては二つある。一つは、(その学級に) 欠けている道徳的知識を入れていく授業群である。もう一つは、知識に依拠しながら、その知識の浅さを突き・常識化した言葉の概念を崩し・現実世界の問題へと目を向かわせる授業群である。 (125 ペ)

■山口理著『生きた資料の活用』(国土社, 1991) より

○私の知人に、一人の料理屋がいる。ある時、彼は私にこんな話をしてくれた。

「材料の味を引き出すのは板前の腕だが、それだけでいい味を出すには限界がある。やはりいい材料を使わなくては納得のいく味は出ないし、お客さんにも喜んではもらえない。」

道徳の時間に用いる資料にも、これと同じようなことが言える。資料を生かすも殺すも教師の腕次第だが、多くの欠点を持った資料では、授業技術だけでそれをカバーすることは不可能に近い。「よい資料を用い、そのよさを引き出す工夫と技術を駆使する」ことが、よりよい授業の条件となってくる。つまり「資料」と「指導方法」が見事に調和したとき、質の高い授業が展開されるのである。 (1 ペ)

*

というわけで、私たち教師の仕事は、「エネルギーに満ちた資料」(『生きた資料』)を見つけたず(または作り出す)ことから始まるのです。ちゃんちゃん。